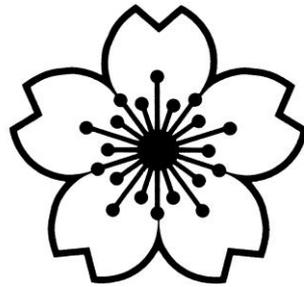


体験授業

平成31年3月23日(土)

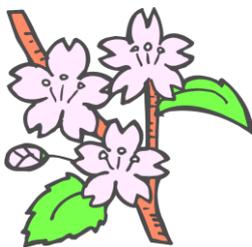


**大学の講義を体験できるチャンス！
ぜひ聴いてみて下さい。**

跡見学園女子大学

文学部

<p>人文学科</p> <p>13:35~14:05 3号館1階3155教室</p>	<p>シェイクスピアと絵画——オフィーリアの悲しみ 教授 村田 宏</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)は、言うまでもなくイギリスの大劇作家です。後代の文学に多大な影響を与えたのみならず、美術の世界にも多くの題材を提供しています。なかでも『ハムレット』に登場する悲劇のヒロインであるオフィーリアは、絵画作品にくりかえし取り上げられています。体験授業では、このデンマーク王ハムレットの恋人オフィーリアがいかに描かれてきたかを具体的作例にそくして考えます(スライド使用)。理解の一助として『ハムレット』の映画を部分的に紹介する予定です。</p>
<p>現代文化表現学科</p> <p>14:10~14:40 3号館1階3155教室</p>	<p>消費社会における「カルチャー」の商品化をめぐる 教授 佐藤富雄</p> <p>現代社会は消費社会です。モノだけが商品として大量生産、大量消費されているのではなく、文化作品や芸術作品もまた大量に複製され商品として消費されています。大衆文化(ポピュラー・カルチャー)だけでなく、伝統的なハイカルチャーでも同様の傾向が見られます。誰が、どのように、そして、なぜ受け入れ消費しているのでしょうか。また、「文化」はどのように商品化され、いかなるプロセスを通してその消費は促進されるのでしょうか。現代社会における「文化表現」の受容、消費の意味と仕組みを考えます。</p>
<p>コミュニケーション文化学科</p> <p>11:15~11:45 3号館1階3155教室</p>	<p>ラジオ放送の“耳のことば”で伝える ～入試の面接試験で、紙に書いた資料を配りますか～ 教授 小坂橋 靖夫</p> <p>目で読んで伝える新聞や本と、耳で聴いて伝える放送の、長所と短所を比較しましょう。情報は、発信者がむずかしい漢語をそのまま読んで伝えたと、受信者は内容がよくわからないことが、よく起きます。 日本でラジオが始まって94年。放送局がくふうを重ねてきた“耳をとおして伝えることば”を、日常生活での情報伝達に生かしましょう。 講師は、NHKでアナウンサーと放送用語研究の経験があります。</p>



マネジメント学部

マネジメント学科 13:35~14:05 3号館1階3156教室	ディズニーランドとマネジメント 教授 山澤成康
	開園35周年を超えても人気の衰えないディズニーランド。なぜみんな楽しいと思うのでしょうか。アトラクションやショー、パレード、ディズニーグッズやレストランなどさまざまな魅力的なコンテンツがあります。その背後にはさまざまな「マネジメント」の工夫があります。それは単なる思い付きではなく、さまざまな配慮の末に実行されています。ディズニーランドの入口からシンデレラ城に向かう間にもさまざまな工夫が凝らしてあります。今回はレイアウトの工夫を中心に解説します。

生活環境マネジメント学科 11:50~12:20 3号館1階3156教室	生活の中の“あたりまえ”を疑おう！ 講師 赤松瑞枝
	「あたりまえ」を疑うおもしろさに気づくこと、それが生活環境マネジメント学を学ぶ第一歩です。皆さんも自分の生活を見渡してみてください。なぜそうなるの？どうしてこう決まっているの？と疑問に思うことはありませんか。この授業ではその一例として箸に着目します。さまざまな種類の箸を使いながら、一番使いやすい箸はどれか探します。そしていつも使っている箸とどう違うか考えます。このようにして「あたりまえ」といつもはスルーしている出来事を見直すおもしろさを実感し、本学科の学びの一端を一緒に体験しましょう。

観光コミュニティ学部

観光コミュニティ学部① 11:15~11:45 3号館2階3256教室	観光立国日本！「国際化する日本の観光未来戦略」 准教授 篠原 靖
	今や日本の観光は政府の成長戦略として位置づけられています。来年2020年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。政府では何と4000万人の外国人観光客（インバウンド観光客）を誘客し外国人旅行消費額8兆円を目標に様々な政策を推進しています。今回は観光に興味を持っている高校生の皆さんに、「国際化する日本の観光未来戦略」について「日本の経済と観光の関係」「地方創生と観光の関係」の2つの視点で分かり易く解説します。

観光コミュニティ学部② 14:10~14:40 3号館2階3256教室	農村文化ツーリズムと“本物らしさ” 教授 轟理恵子
	農村文化ツーリズムとは、農村の文化や日常生活自体を「観光資源」として捉えるひとつの観光のあり方である。農村は農産物の生産・提供に止まらず、農村のイメージや文化的シンボルを外部の需要に応じて提供してきた。農村空間が持つ様々な要素（祭り、農業体験、農村の景観、地元の食材による食事、社会関係等）は、全て観光資源となりうる。観光客と受け入れる地元の農村住民。相互の交流は何をもたらすのか。虚構と現実、イメージと本物、癒やし、身体性等をキーワードに、現代社会について「農村文化ツーリズム」の視点から考えてみよう。

心理学部

臨床心理学科 11:50~12:20 3号館1階3153教室	ネガティブな気持ちはどこから来るの？ -感情に捉われない考え方の工夫- 講師 前場康介
	「明日のテストが嫌だなあ…」「なんであの時、あんなことを言っちゃったんだろう…」「最近、いいことないなあ…」など、毎日の生活の中でどうしてもネガティブな気持ちはやってきてしまいます。この体験授業では、心理療法の一つである認知行動療法やマインドフルネスの観点から、そのような気持ちに捉われないためのヒントを、簡単なワークも交えながら解説します。特に、私たちが普段何気なく使っている「言葉」に注目して、お話をいたします。